

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001203		
法人名	社会福祉法人 マルミ会		
事業所名	マルミ苑 グループホーム		
所在地	〒824-0216 福岡県京都郡みやこ町犀川谷口425番地 Tel 0930-42-0117		
自己評価作成日	平成23年9月26日	評価結果確定日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ここでの生活に喜びと安らぎを感じ、笑顔があふれ充実した日々が過ごせるよう心のケアを図っている。 ・地域行事の参加、苑内での行事、買物、病院受診等、できる限り外出の機会をつくり、メリハリのある生活ができるよう支援している。 ・高齢者ご夫婦での生活から、どちらかが入居され独居となられることもあり、苑に気軽に遊びに来ていただけるよう声掛けや、送迎等の支援を行い外出・外泊の機会をつくりお互いが寂しい思いをしないよう取り組んでいる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年11月02日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>柔らかい秋の日差しが降り注ぐ長閑な田園地帯の広い敷地の中に、家庭的な雰囲気グループホーム「マルミ苑」がある。手入れの行き届いた花壇や菜園では、利用者と職員が種まき、苗植えで、丹精込めた果物や野菜が元気よく成長し、収穫した野菜や地元の新鮮な野菜を使い、料理上手な職員が作る食事は、味、色合い、盛り付け等を工夫し、利用者の食欲を増進し、健康の源になっている。また、かかりつけ医と協力医による医療体制が確立され、利用者の暮らしが安心して生き活きたものになるように支援されている。ホーム内の職員体制が変わった機会を捉え、働きやすく、介護しやすい環境の整備に努め、ベテランと新人職員によるチームワークと信頼関係を構築し、明るい雰囲気のホームとして家族からの評価は高く、今後は益々期待されるグループホーム「マルミ苑」である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の 関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応 じた柔軟な支援により、安心して暮ら せている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、利用者様と一緒に唱和し理念に沿った実践が出来ているか再確認している。慣れ親しんだ地域の中で自分らしくゆとりのある生活が出来るよう地域の方々との関係作りを気をつけ業務に携わっている。	「喜びと安らぎと思いやり」「心あたま共同生活」「地域社会とのふれあい」という独自の理念を掲示し、職員は利用者と共に唱和し理解して、実践に向けて取り組んでいる。また、理念を読み返すことで介護の基本に立ち返り、利用者一人ひとりに寄り添った支援が行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、町や社協主催の行事等に積極的に参加している。地区の草刈りやお不動様の清掃に参加している。散歩の時に挨拶を交わしたり気軽に声を掛け合うことで交流を深めている。	町主催の行事や草刈り、お不動様の清掃など積極的に参加し、そこで知り合った地域の方と散歩時などに親しく会話をする機会をもっている。また、ホームの納涼祭は地域のボランティア(演歌ショー・フラダンス)の協力で盛り上がり、地域との大切な交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者の方に声掛けを行い元気にされているか様子を見ている。また問い合わせや見学に来られた時には、介護に関する相談やアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、ご家族、みやこ町の方等から良いアドバイスやご意見を頂き反映することでスタッフと共にサービスの向上に努めている。外部評価の報告も会議の場にて行っている。	会議は、家族、行政職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員がメンバーとなり、2ヶ月毎に開催している。行事活動報告、行事への協力依頼や試食会などが行われ、要望、意見が活発に出され、双方向的な充実した会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に行き質問、疑問点を解決し、その後わからない事なども電話にて問い合わせ解決している。また運営推進会議の場でケアの取組みや実情を伝えている。	運営推進会議に、行政職員と地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現況を把握してもらった上でアドバイスをもらうなど、連携を密にとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為について常日頃から、話し合い、身体拘束委員会にて事例検討を行い、把握に努めている。ストレスを感じさせないケアの方法を考え、拘束ゼロで対応出来るよう支援している。	3ヶ月毎に身体拘束委員会を開催し、事例検討を行い、職員同士で注意し合うなどの取り組みから、拘束が利用者にもたらす弊害を理解し、職員全員で身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉・拘束・体罰全てにおいて虐待であることを把握したうえで、お互いに注意を払い気をつけあっている。心にゆとりを持って介護に携わるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活支援事業などの研修に参加し、説明や必要な方には活用が出来るよう支援体制が出来ている。理解することが困難な方もおられるが、必要性を話し合いながら支援を行っている。	権利擁護に関する制度の資料やパンフレットを用意し、外部研修に参加し、内部研修で職員全員が周知し、利用者や家族が必要とする時、いつでも支援できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際には十分な説明を行い不安や疑問に関することについて納得されるまで説明を行い理解して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自身で表現できる方においては意見、要望を聞き改善に努めている。また介護支援相談員の方が1回/月訪問して頂いている。	運営推進会議に家族が参加し、会議終了後、家族だけで話し合う場を提供したり、家族面会時や電話などで、意見や要望を聞き取り、ホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスの場で意見や提案を出して貰い、反映している。	毎月、職員会議を開催し、職員からアイデアや要望など聴きながら、ホーム運営にできるだけ反映させている。また、職員と常に話し合うことで、不安や不満などの払拭に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験、資格、実績等において役職への昇格及び給与水準の見直しを行い、向上心を持って働けるよう努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別にこだわることなく優しく思いやりのある方を対象としている。在職中の職員においては研修の場や資格取得に向けての提案、相談、助言を行い自己実現ができるよう配慮している。	職員の採用は、人柄、やる気のある人を優先し、年齢、性別の制限はない。また、職員のスキルアップのための研修受講の支援や、職員が生き生きと働くことができるよう、職場環境の整備を実践している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人生の大先輩であることを心得、相手を敬い思いやりを持って業務に携わるよう会議やカンファレンスの場で話し合っている。	外部研修に参加したり、お寺の住職の定期的な法話を聴く機会を設け、利用者の人権を尊重するとは、どういうことなのかを理解し、日頃のケアの中での実践に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに計画を立て、段階に応じた研修が受けられるよう取り入れている。年に2回、個人のケアの見直しを行い介護力の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会を1回/2ヶ月設けており交流、意見交換、勉強の場となっている。この会議を通して、より良いアドバイスを頂き活かすことができている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自身を表現してくれるまでの時間を大切にしている。言葉で表現することが困難な方もおられる為、行動、表情、仕草から受け止め安心して生活が営めることが出来るよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時よりご家族の不安や要望等を傾聴し安心して相談が出来るよう心がけ、信頼関係の構築を図っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が要望されている、サービスが実現できるよう、ここでのサービス内容や他のサービスの内容等も含め説明し支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園作りや収穫を一緒にに行い、食事の下準備など雑談を交え共に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者様が疎遠にならないよう常に連絡が取れるように努めている。病院受診等協力を得ながら本人を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に外出・外泊した際には近所の友人と会ったり、良く行っていた場所にドライブに行ったりしている。苑に来て頂いた方にはまた来て頂けるよう声掛けを行っている。	利用者は、地域住民の方が多く、近所の友人、知人が訪ねて来たり、散歩の時に馴染みの場所へ立ち寄ったりの支援をしている。また、利用者の行きたい所などへは、家族と相談し、同伴できるよう工夫を重ねている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を取り持ち利用者様同士の関係を築いている。声掛けをしてくれている利用者様には感謝の気持ちを伝え、継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて近況報告をしたり、会った時には健康状態等を気遣ったりしている。気軽に遊びに来て頂けるよう声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者と利用者様が信頼関係を築き本人の思いが引き出せるよう努めている。本人の要望や希望を聞くことが困難な場合においては、ご家族を含め意向を把握した上でサービス内容に反映させている。	職員は、利用者の手を握って寄り添う介護を実践することで、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、意向の表出の困難な利用者については、家族からの情報や、ベテラン職員によるアドバイスなどから判断し、利用者がいつまでも安心して穏やかに暮らせる支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しく聞き、カンファレンスにて共通認識出来るよう努めている。またご家族の面会時に何うようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を徹底し、個人の心身の状態や健康管理に努め、小さな変化にも気づけるよう対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の要望を聞き、主治医やスタッフや関係者の意見を反映させ、要望に沿えるよう計画作成している。	介護計画は、利用者や家族と相談しながら関係者の意見を聴き、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を取りながらその都度見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、個別の申し送りを徹底し情報の共有に努め、計画の見直しに活かせる様にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に沿えるよう、あらゆるサービスを助言し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の訪問、駐在の巡回、消防による消防避難訓練の実施、ボランティアによる踊りや歌などの訪問等を行い地域資源との協働を図り豊かな生活が営めるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の把握及び継続の有無の確認、協力医療機関の説明を行っている。かかりつけ医受診においても、家族の支援が困難な場合は宛にて受診対応を行っている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。また、協力医療機関と連携し、24時間安心できる医療体制である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が居る時には、助言を求めている。また受診時や往診時にアドバイスをして貰っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした時には病院関係者の方との情報交換を行い、入院時の利用者様の状態、退院後の対応の把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前確認を行なっている。重度化した場合には、再度希望、要望を聞き十分な説明を行い、方針を共有した上で、ご家族の協力を得ながら主治医との連携を図り支援している。	利用者の重度化に向けた介護体制を、家族や関係者と話し合い、常に方針を共有し、ホームで出来ること、出来ないことを考慮しながら支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、すぐに対応出来るよう職員間で訓練を行い、消防による救急救命の訓練を行い全ての職員が対応出来るようしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防・避難訓練を消防署の方の協力の得て日中、夜間と行っている。近隣の方にも運営推進会議や行事の際に協力を依頼している。非常事態に備え水や非常食も毎月点検を行いながら準備している。	消防署の指導で、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難場所での見守りの協力を近所の方をお願いしている。また、非常災害時における非常食、飲料水、カセットコンロなどの準備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を敬う気持ちで接するよう常に心掛けて、ケアに携わるようにしている。排泄時、入浴時においては十分なプライバシーの確保を行い、自室ではプライベート空間を大切に過ごせるよう支援している。	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、優しい声かけや対応で、プライバシーを損なわない介護を実践している。また、個人情報の資料は、カーテンなどで見えないように工夫し保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを言葉で伝えることが出来る方には問いかけるようにしている。短文で話せる方には簡単な表現で問いかけ、意思表示が困難な方に対しては、表情で判断を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意思・健康状態などを考慮したうえで、本人のペースで日々過ごせるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面台にて身だしなみを整えて頂き希望の衣類があれば、確認を行いながら、支援している。お化粧をしたい方には準備を行い支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食材を聞き、季節の旬の野菜を取り入れ食事が楽しく頂けるようしている。料理の下ごしらえや下膳、テーブルクロスの片付け等を一緒にして貰っている。	菜園で採れた野菜や、近所の方からの差し入れの新鮮な野菜を利用し、料理上手な職員が季節を感じられるよう、盛り付けに心を配った美味しい食事は、利用者の大きな楽しみである。職員と楽しく談笑しながら食べる食事は、利用者の健康の源となっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	どのような食生活であったか把握した上で、栄養バランスを考えた献立を提供している。状態に応じてトロミ食・刻み食・ミキサー食にて対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。その際に舌の状態・口腔内の状態を確認している。自力でケアが出来ない方については入歯の洗浄、消毒を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理を行い、トイレ誘導を行っている。尿意が曖昧な方においては定時のトイレ誘導を行い失禁無く過ごせるようトイレでの排泄を促している。	排泄チェックシートを活用し、利用者の習慣を把握し、優しい見守りや声かけで、排泄の自立支援に向けた取り組みを支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を把握したうえで、食物繊維の多い食品、水分摂取に心掛けている。できる範囲での運動をするように対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者様の希望や体調により入れなかった時にはいつでも入浴出来るように準備している。	入浴は、週3回であるが、利用者の状態に合わせ、変更したり、毎日入浴することも可能である。また、入浴を拒まれる利用者に対しては、担当職員を代えたり、時間を置いての再度の声かけなど、入浴に向けての支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣・体調・希望に合わせて休息をとって頂いている。就寝時間は本人のライフスタイルに合わせて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書をすぐに確認できる場所に置いており、薬が変更になった時には申し送りを行い病状の変化を観察するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にできる役割を見出し無理強いをしない程度に行って頂き感謝の気持ちを伝えている。個人の楽しみ事や気分転換が図れるようレクリエーション、ドライブ等を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買物・ドライブ・外泊など、出かけたいたい場所の希望を把握した上で外出できるよう支援している。	散歩、ドライブ、外食など、利用者の希望を聴きながら、家族と相談して外出の支援をしている。また、ホームの玄関を一步外に出ると、季節を五感で感じることができる自然環境があり、畑仕事やベンチに腰掛けたり、ちょっとした外気浴も積極的に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお小遣いを所持し希望の物を購入されている。困難な方においては家人からお小遣い程度のお金を預かっており買物や行事で出かけた時に、使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、代行で電話を取次ぎ本人が話す事ができるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な落ち着いた雰囲気となるよう置物や装飾を施している。季節感が出るよう、季節の花などを生けるようしている。また入居者さまが混乱しないよう目印をつけ安全で安心した生活ができるよう工夫している。	広い庭と畑、ゆったりとした建物の中、日当たりのよい広い廊下の突き当たりにはソファが置かれ、利用者は毎日腰掛けて本を開いている。季節の飾り物や手作りの掲示物、季節の花を生けることで十分に季節感を演出している。また、バリアフリーを完備し、安心して暮らせる共用空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者様同士で過ごせる空間の確保、ゆっくりとくつろげるようソファを設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住んでいた部屋の雰囲気に近づけるよう入居時に説明を行い、馴染みの物や好みの物を持ってきて頂ける様お願いしている。写真や大切なものを飾りそばに置くことで安心して生活が送れるよう工夫している。	居室は明るく広く洗面所完備で収納スペースも広い。利用者は、家族と相談しながら、馴染みの家具や小物、絵、写真などを思い思いに持ち込み、居心地の良い居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮し常に改修・修理を行っている。利用者様の目線での使いやすさを考えた環境づくりに配慮している。		